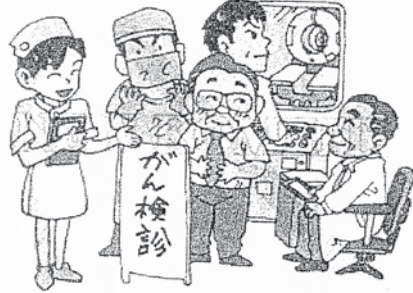




榎本雅夫 議員

がん検診の向上で市民の命を守れ



質問

がんは検診により、早期発見、早期治療でがんの死亡率を減少させることができる。本市の検診状況と成果は。

市民生活部長

平成22年度実績は、胃がん検診の受診率は18.3%で、がんの発見が5人。子宮がん検診13.5%。乳がん検

診16%で3人。大腸がん検診21.7%で11人。肺がん検診22.1%で4人。前立腺がん検診22.8%で15人であった。

質問

平均19%の検診受診率を目標の50%に向けて取り組みは。

市民生活部長

広報、ホームページでの周知と、特定検診の通知の際に啓発、受診勧奨を行っている。

質問

子宮頸がん、乳がん無料クーポン券は、対象年齢が5歳刻みなので、公平というところからも24年度も継続を。

市長

国へ要望している段階で、国の方針、近隣市町の状況を見ながら判断していきたい。

質問

ピロリ菌の除菌で胃がんを防ぐことが考えられる。胃がん検診に取り入れてはどうか。

市民生活部長

現在、有効性評価に対する研究が行われている。

質問

50歳以上、5歳刻みで、前

立腺がん検診に無料クーポン券の実施をしてはどうか。

市民生活部長

クーポン券を利用しての受診勧奨はできない。

AEDの増設と救命講習の充実を

質問

突然の心停止を起こした場合、1分後にAEDを使えば救命率は90%であるので、早く使うことが大切である。児童館、保育園にも設置をしてはどうか。

検討していきたい。

貸出し用は考えていきたい。

質問

大切な命を守るためにも日ごろの訓練が大事である。本市の救命講習の取り組みは。

福祉部長

安心・安全の観点から前向きに取り組んでいきたい。

消防長

平成22年は普通救命、上級救命講習を37回実施、581人が受講。このうち個人、事業所は17回で156人が受講。学校関係では19回で425人が受講。市職員は、今年度に一般行政職員を全員対象に計画し、10月から実施する予定でいる。

質問

民間も含めたAEDマップを作製してほしいが、また、消防署で1台、貸出し専用のAEDを持つてはどうか。

消防長

今後の設置状況を見ながら